

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 5月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104506
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム小野の里
所在地	鹿児島市小野2丁目10-18 (電話) 099-220-7070
自己評価作成日	2016/3/13

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

パーソンセンタード・ケアを職員全体で理解し本人様に寄り添った介護で支援しています。
ホーム全体が明るく、落ち着いた家庭的な雰囲気の中でのんびりゆっくりと自分のペースで過ごされ、持っている機能や能力を活かし役割を持って生活したり畑をされる方もいます。
一緒に活動したり行事で出かけたりすることで表情豊かに生活される入居者様も多く町内会や近隣保育園に出かけたりすると大変喜ばれます。
ボランティアや園児の訪問もあり時には賑やかに生活され地域との交流も多いです。

<理念と方針>
・理念に加え、理念をより具体的に表した事業所の方針も打ち出しており、玄関やフロアなどに掲示することで、職員や利用者、来訪者にも理念の理解と実践について考えてもらうようにしている。また、理念が現状に即しているかをカンファレンス等で繰り返し話し合うことで、理念を確認し、理念の内容の見直しも含めて話し合われている。
<身体拘束廃止について>
・身体拘束廃止委員会を設置し、年2回程研修会を実施している。また、虐待事件がニュースで報道されると、事件等の事例を基に勉強するなど、原因究明とその対処法について話し合い意見を出し合っている。
・利用者の日頃のつぶやきや言動から思いを汲み取る努力をしているため、利用者の変化をいち早く察知することができており、見守りや職員間の連携につなげることができている。
<食事を楽しむ>
・一日の中でも食事の時間を大切に考えているため、献立は前日に立て、利用者の食べたいものが提供できるよう努めている。また、誕生会や敬老会、クリスマス会といった行事食の提供や、ソーメン流し、レストランへの外食、個人で希望する外食先にも同行するなど、食事への思いを大切に考え対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念復唱し共通理解した上で実践へつなげている。	利用者や家族、来訪者等にも理念を見てもらえるよう玄関やフロアに掲示しており、毎日唱和することで意識付けを図っている。また、理念をより具体的にした事業所の方針を打ち出し、カンファレンス等で理念の文言が現状に即しているか話し合うなど、繰り返し理念の実践に向けた取り組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し行事参加の案内を出している。地域にある保育園の行事に参加したりホームの行事にきて頂いたりして定期的に交流を図っている。	自治会に加入しており、また、運営推進会議で町内会長から情報が得られることもあり、地区の文化祭に作品を出品したほか、事業所行事である夏祭りや敬老会、ふれ合い交流会に地域住民に参加してもらうなど積極的に地域交流を図っている。また、保育園児との交流も盛んで、クリスマス会や節分、ソーメン流しに呼ばれるなど楽しい時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症があるご家族の方の相談や高齢者サービス利用のお手伝いや説明・案内を行っている。入居申し込み時など相談に時間を多くとっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で定期的に状況報告している。ご家族の思いやつぶやきを大事にしてサービスに活かしている。認知症の勉強会も行っている。	利用者や家族のほか、町内会長や地域包括支援センターの職員らが参加し、事業所の取り組みの報告や意見交換、認知症に関する勉強会等を実施している。メンバーからは、行事の提案などの意見が多く出され、その都度速やかに対応につなげている。また、会議は家族の悩みや相談事を話し合う機会にもなっており、家族の思いを行政につなげる機会にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村の主催する勉強会・研修・説明会に参加している。	行政職員とは、運営推進会議や介護認定申請時のほか、相談事がある時や行政主催の研修会等で顔を合わせており、顔なじみの関係ができています。また、年1回利用状況の確認のため、相談員が来られるほか、保護課とも利用状況の確認など、日頃から連絡連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を毎月実施している。カンファレンスでも議題として触れたり拘束のないケアが実践できるよう職員全体で取り組んでいる。具体的行為に関しても委員会・カンファ・面談時に尋ねてみたりして理解出来ているか確認している。	身体拘束廃止については、カンファレンスで毎月話し合うとともに、年2回程身体拘束廃止委員会を中心とした研修会を実施している。これら研修のほか、日頃の本人や家族のつぶやきや言動などからも思いを汲み取ることで、職員一人ひとりが利用者の諸動作の意味を把握することができており、声かけや見守りが、スピーチロックにつながらないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と並行して虐待に関する事項・ホーム内での事案がないか確認している。カンファレンスでも話題にあげたりして高齢者虐待防止法などの理解に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	カンファレンスや内部研修に成年後見制度を取り入れている。話題にも触れ成年後見制度についての冊子などもいつでもみられるよう休憩室において活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は重要事項説明書・契約内容を一緒に確認し説明行っている。合間にご家族の表情を見ながら理解・納得・了承してもらいながらわかりやすい説明が出来るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関先に意見箱を設置している。外部に意見が届くようポスターを掲示したり運営推進会議や面会時でもいつでも意見が言えるような雰囲気づくりに努めている。	利用者のしたいことや好むことを日常の言動や家族から話を聞くことで把握しており、運営推進会議に家族も多数参加されることから意見や要望を尋ねる機会が多い。近隣の方からエアコンの室外機の音が大きいとの意見が出された際は、速やかにブロック塀を造るなど対応した経緯がある。また、事業所以外にも意見や苦情を表せる場があることを契約書や掲示版に掲げるなど意見や要望の把握に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス時職員の意見を聞いたり個々に個人面談したりして運営に反映させている。	管理者は日頃より、お茶や食事の際に職員と会話を交わしており、必要に応じて個別面談を行うなど職員の意見にこまめに耳を傾けている。また、毎月のカンファレンスでも職員が積極的に思いや意見を伝えるなど、意見を言いやすい関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は労働条件に反映させたり給与に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修を紹介したりして研修の機会を提供している。内部の研修も毎月年間行事計画に入れ込んで施設内でも研修を行って報告書を作成した後内容を職員へ還元している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連事業所・他事業所との研修・見学・意見交換を通してサービス向上が図れるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際や面談時に生活状況や生活背景を把握するよう努めている。本人様の困っていること・不安に思っていること等思いをゆっくり聞いた上で安心した生活が送れるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや心配なこと・不安なことなど時間かけゆっくり聞いた上で事業所として出来ることを一緒に話しあいながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時など本人や家族の状況を確認した上で判断・見極めを行い、改善に向けた支援の提案や早急な対応が必要な相談者へは迅速に他サービス機関へつなげたりするなどの対応に努めている。。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者・職員がお茶や食事を一緒に行ったり準備や掃除なども協働して穏やかに生活しやすい環境を一緒に整えて関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や便りなどで日々の暮らしや生活状況を伝えている。またご家族からも情報を受け取りコミュニケーションを図る。ホームも家族と同じ想いで支えていることも理解して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が利用していたなじみの場所や自宅など家族の協力ももらいながら外出してゆっくり過ごして頂いている。知人・友人との面会なども歓迎しゆっくり過ごして頂いている。	これまでの人間関係や馴染みの場所を基本台帳に記録し、友人や知人らとのつながりを維持できるよう電話や手紙、訪問の手助けを家族と職員が協力して行っている。馴染みの店やお墓参りに家族と出かけたり、毎日の食材の買い出しの際に利用者と一緒に出かけるなど、これまでの生活を大切に考え、積極的に外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人様が出来ることをされお互いが支え合える環境の調整役として間に入り支援している。利用者同士の関係を把握しコミュニケーションも円滑に運ぶよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先に出かけて見舞いに行ったりお通夜などにも出かけている。退去後の情報を把握し必要に応じて相談等の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	計画作成時や面会時に本人・ご家族より希望や意向を聞いたり話しあっている。記録より分かる情報や家族からの情報を共有し申し送りやカンファ利用し本人本位で検討している。	本人家族から直接意向を確認するほか、利用者同士の会話やつぶやきの中に思いが含まれていると考えるため、日頃から同年代の利用者同士のつきあいを大切にしたいと考えている。把握した内容は、業務日誌に記録して朝礼や夕方の引き継ぎ、カンファレンスの場で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前・入居時にご家族や施設等より情報を頂いたりして把握に努めてここでもいづらか同じように生活が出来るよう経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを職員が理解し身体状況や情報・個人の有する力に合わせて一日の過ごし方を検討把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の出来ること望むことや家族の思いをプランに反映できるよう話しあっている。カンファレンスを行い意見交換・モニタリングを職員間で行い計画に活かしている。	本人・家族の意向を主とした介護計画を、毎月のモニタリングや6カ月毎のカンファレンスで立てており、主治医からも受診時に情報を確認して介護計画に組み込んでいる。また、入退院等で状態に変化がみられた時には、速やかに介護計画を見直し、再作成することで現状に即した介護計画としている。行政主催のケアプラン検討会にも参加して介護計画の作成方法について学ぶ機会も得られた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・気づきを個別記録に残しそこから情報を得たり想いを知り共有した上でプランの見直しなどにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・ご家族の突発的に起こる変化や病院受診等、状況に応じて柔軟に対応し介助・サービスの多様化にも理解し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して暮らせるよう町内会や近隣保育園・ボランティア・消防など連携をとっている。認知症に関しての情報も入れ地域に理解して頂き安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望する医療機関でのかかりつけ医で受診・往診を支援している。スムーズに医療が受けられるよう家族・病院と連携している。	入居前のかかりつけ医を基本情報に記録し、本人家族の希望する病院を家族と職員が協力し受診につなげている。受診の際には、バイタルや食事、排泄状況が記録された「生活身体状況」を持参することで医師に情報を提供している。また、受診時に把握した内容は介護記録に記録して、申し送り時に職員間で共有するとともに家族にも必ず報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や往診時に様子や変化伝えたり急変時にもかかりつけ医に相談・連絡行っている。毎日バイタル測定したり声かけし表情にも気をつけて早期に変化に気づき適切に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族と連絡取り合ったり情報提供書を出したりしている。また面会時に様子を聞いたり入院先のドクターやナースから情報を提供して頂いたりして退院後の相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化・終末期について話をご家族としている。本人の気持ちを第一に状態変化がある際など都度家族の意向も考慮して検討・確認行い支援している。かかりつけ医と連携しホームの方針も提示・理解して頂いている。	入居時に「重度化や終末期における介護指針」を説明し同意を得るようにしている。事業所としては看取りは行わない方針であるが、重度化や死については、職員間で話し合い、利用者への尊厳ある生活の支援に向けて確認し、日々のケアに反映させられるよう努めて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や避難訓練に入れ込んで定期的に行っている。緊急時のマニュアルもいつでも見られる場所に置き、声かけしている。緊急連絡や連絡の方法についてもカンファで伝えたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回以上定期的に避難訓練を実施している。地域と連携して合同で行ったりしている。地震や風水害に関しても訓練の計画を入れている。</p>	<p>火災や風水害に対する災害訓練を年2回以上実施しており、参加してくれた地域の方々には、主に避難誘導や待機場所での見守りをお願いすることができた。事業所のある地区は危険区域地区に指定されているため、地域の避難訓練にも参加したり、飲料水や缶詰、カップめん等の備蓄や応急セット、懐中電灯等の備品を備えるとともにカルテ等個人情報についても持ち運びしやすい場所で管理するなど万々に備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まず一人の人間として、目上の方として接する事を心がけ本人の気持ちや意志を尊重した介助や声かけが出来るよう配慮しながら支援している。	人格の尊重や接遇に関する内容について、毎月のカンファレンスの中で話し合うほか、外部研修にも積極的に参加している。また、個人情報保護についてや職員一人ひとりの言動についてもきちんと責任を持ち、行動しなければならない等、カンファレンスや申し送り時に繰り返し確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状況や出来る範囲で複数の選択肢を提示し声かけするよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にしながら必要に応じて柔軟に対応出来るよう支援している。会話を多くとり希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外部より移動美容室を依頼している。一緒に服を選んだり鏡を見て整容出来るよう声かけしたり手伝ったりしてその人らしい身だしなみの支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけや食事準備・片付けの手伝いを役割としてお願いしている。それぞれの力に応じ、一緒に支援し同じテーブルで同じ時間に入居者と食事を楽しんでいる。	前日に献立を決め、毎日食材購入に出かけるため、利用者の食べたいものに応えることができ、菜園の野菜や配下膳、調理の下ごしらえ等一連の工程を利用者と職員が一緒に行っている。また、ソーメン流しやレストラン、お弁当を持って花見に出かけたたり、お寿司が食べたい等個人の希望にも快く対応するなど、食事の楽しみを大切に考え、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日食事量・水分量をチェック表につけて把握している。本人様の既往や食事形態・嗜好にあわせてその方に応じた食事提供に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>本人様の状況に合わせて食後に声をかけたり介助したりして口腔内の清潔維持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を活用し排泄パターンを理解し出来るだけトイレで排泄できるよう声かけしたり介助している。使用しているパンツ・パットなど適宜検討を行っている。</p>	<p>「水分、排泄記録表」で水分摂取量や排泄時間を把握することで、トイレ誘導のタイミングを計っている。また、トイレでの排泄を基本とし、トイレ介助の際も安易に二人で介助せず、声かけを多くしたり、動作しやすい位置に手すりを取り付けることで本人の力を引き出すよう努めることで、排泄の自立度につながっている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食べること・活動すること・気持ちよく出すことを職員が理解し興味あることや出来る役割に参加しながら便秘予防に努めている。毎朝ヨーグルトや牛乳を提供したりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望回数・時間などを聞いた上で出来るだけ希望に添う形で入浴支援行っている。ただし午前から夕方まででお願いしている。	特に入浴時間は設けておらず、自由に入ることができ、介助職員も基本的に同性介助となるよう調整している。また、シャワー浴や足浴についても、希望に沿って行える体制をとっている。入浴後のスキンケアや水分補給に好みのものを飲んでもらうなど脱水予防に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の生活習慣を大事にしながらゆっくり休めるよう支援している。本人様の体調や言動にも配慮し疲れたときなどはゆっくり休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターや薬剤師から説明を受けて目的や副作用について聞きカルテに薬の説明書を綴り毎回確認している。変更等ある際は申し送りをして伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来ること・したいことを職員が理解し時間かかってもして頂いている。行為をほめる言葉を入れ意欲を継続できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	歩行が難しい方でも車や車いすを使用し一緒に行事などに出かけている。戸外で弁当を食べたり外食している。ご家族にも外出の希望があれば協力を頂いており個別でも出かけて頂いている。	初詣や桜の花見、ソーメン流しやレストランへの外食のほか、個別に希望する外出先へも家族と職員が協力し合って外出支援につなげている。また、歩行が難しい方には車椅子や車椅子対応車で出かけるなど、外出による気分転換や外気浴でストレスにつながらない生活が送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の理解の下自分でお金を持っている方もいらっしゃる。ホームでお小遣いをお預かりしている方もいるが希望や能力に応じて支払いなどして頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話はいつでもつないだりかけたり出来るよう支援している。またお手紙なども届いた際はお渡しし喜ばれている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂横の和室でゆっくりくつろげるようソファや座椅子を置いている。ホールや廊下に季節感を感じられるよう飾り付けたりお花を生けている。また加湿器などを各所に置きエアコンとあわせ適温になるよう調整している。</p>	<p>玄関、フロアは明るく、花や季節ごとの作品のほか、行事の写真が飾られている。また、フロアや畳スペースにはソファや椅子が多く配置され、畳スペースでは好きな番組を見ながらくつろげるなど自由な暮らしを支援している。温度や湿度にも気を配っており、毎朝の換気や加湿器を配置するなどして感染症予防に努めている。共用トイレは手すりや介助スペースの確保により移乗しやすく、また、夜間用に足元灯も設置するなど工夫がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>お食事以外は普段から座席を固定せず自由に座って頂いている。共有空間でそれぞれがテレビを見たりレクを楽しんだり好きな場所で行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力もらい使い慣れた家具などの持ち込みをお願いしている。また、本人様が作った作品や写真を貼ったりしてそれぞれが過ごしやすい部屋になるような工夫をしている。	エアコンとベッドが備え付けられ、タンスやテーブル、テレビや仏壇など、これまで自宅で使っていた馴染みのものを持参してくつろげるよう、また、動作しやすいよう配置している。居室の掃除は毎朝、利用者と職員が一緒に行っており、共用スペースである玄関や洗面台を掃除してくれる利用者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用して頂くよう声かけし廊下に障害物を置かないようにしている。本人がよく理解出来るような表示の仕方や声かけにも工夫を行いながら支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない